

授業科目名 <英訳>	西洋史学(講読) European History (Seminars)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 助教 徳永 悠					
配当 学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	講読	使用 言語	日本語
題目	英書講読										
【授業の概要・目的】											
<p>今日、国境を越えた人間の移動はグローバル化の中でますます活発化している。日本社会でも外国籍の人々は1990年の107万人から2016年の230万人と二倍以上に増えており、移民とその子孫が日本各地で経済や文化の発展に貢献している。一方で、彼らに対する偏見や差別、格差も残っている。この授業では、Khalid Koser, <i>International Migration: A Very Short Introduction</i>, 2nd edition (2016)とSucheng Chan, <i>Asian Americans: An Interpretive History</i> (1991)の一部を読む。国境を越えて人が移動する理由、移民の生活や権利、移民に対する差別、移民に関する政策など現代においても重要なテーマについて、19世紀後半～20世紀前半にアメリカ合衆国に渡ったアジア人移民/アジア系アメリカ人の歴史を通して理解を深めることを目的とする。</p>											
【到達目標】											
1) 英語の読解力を養う、2) 現代の移民の状況について理解を深める、3) アジア人移民/アジア系アメリカ人の歴史について理解を深める。これら3点を通して、移民に関する議論について歴史的に考える力を養う。											
【授業計画と内容】											
<p>第1回：授業概要説明 / なぜ移民について学ぶのか 第2～4回：KoserのChapter 1, 2, 3 (計36ページ)を読み、現代の移民の状況について概観する。 第5～14回：ChanのChapter 1, 2, 3, 6, 7 (計99ページ)を読み、アメリカ合衆国に渡ったアジア人移民/アジア系アメリカ人の歴史について学ぶ。 第15回：授業まとめ</p> <p>毎週、授業までに該当範囲のテキスト(10ページ程度)を読んでおく。毎週の該当範囲のうち、最も印象に残った段落を一つ選んで翻訳し、その段落を選んだ理由を書き添えた「翻訳レポート」(A4・1枚)を授業開始時に提出する。授業中は15人程度の受講者に、自分が翻訳した段落について発表してもらう。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
<p>翻訳レポート：78点(13回×6点) 期末レポート：22点(1回×22点) 到達目標の達成度に基づき評価する。期末レポートについては学期中に説明する。</p>											
【教科書】											
<p>Khalid Koser 『International Migration: A Very Short Introduction, 2nd edition』(Oxford University Press, 2016) Sucheng Chan 『Asian Americans: An Interpretive History』(Twayne Publishers, 1991) 該当範囲のテキストは担当教員が印刷して授業中に配布する。</p>											
西洋史学(講読)(2)へ続く											

西洋史学(講読) (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

毎週、授業までに事前に伝えた該当範囲のテキスト(10ページ程度)を読んでおく。毎週の該当範囲のうち、最も印象に残った段落を一つ選んで翻訳し、その段落を選んだ理由を書き添えた「翻訳レポート」(A4・1枚)を準備する。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。